

2. 火山の概況

(平成 17 年 2 月 3 日 ～ 平成 17 年 2 月 9 日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では噴煙活動が継続し、火映が時々観測された。火山活動度レベル (以下レベルと記載) は 3。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは 2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは 2、新燃岳のレベルは 1。

口永良部島では地震がやや多く発生した。レベルは 2。

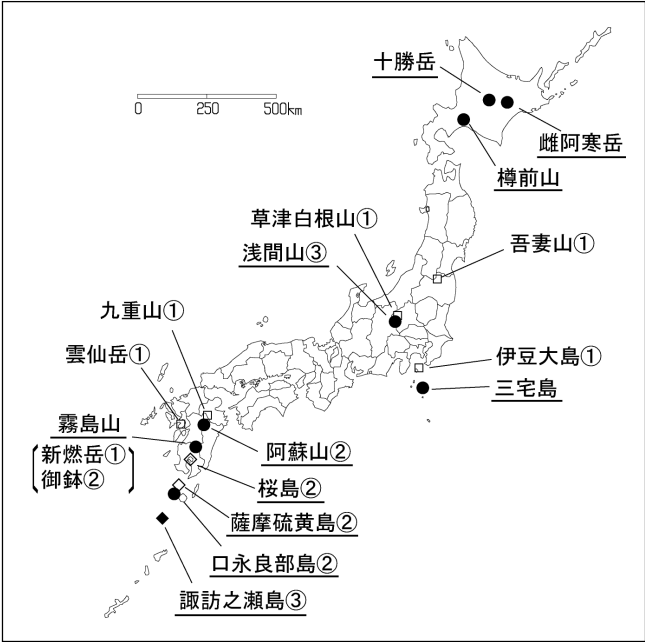


図 1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山 (火山名に下線)

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	三宅島	福徳岡ノ場	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
6	2/3-2/9	●	●	●			●		●			●		●	◇	◇	●	▲
5	1/27-2/2	●	●	●	◇	◇	●		●	●	◇	●		●	◆	◇	●	▲
4	1/20-1/26	●	●	●			●	◇	●			●	◇	●	▲		●	◆
3	1/13-1/19	●	●	●			●	◇	●			●	◇	●	◇		●	▲
2	1/6-1/12	●	●	●			●	◇	●			●	◇	●	◇		●	▲

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山 (新燃岳)	霧島山 (御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
6	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
5	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
4			③	①		②	①			②			
3			③	①		②	①			②			
2			③	①		②	①			②			

表 1 最近 1 か月に記事を掲載した火山 (左) 及び各火山のレベル

注 1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
□：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2 記事は、▲、●及び◆ (注 1 参照) に該当する火山及びレベル 2 以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注 3 本文の火山名の後ろの [噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等] は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 浅間山 [熱・噴煙・火映・地震・微動] レベル3（山頂火口で小～中噴火の可能性）

今期間、噴火は観測されなかった。

9日に行った上空からの火口内の観測¹⁾では、火口底の形状は昨年12月8日の観測と比べ大きな変化はなかった²⁾。赤外熱映像装置³⁾による観測では、火口内の温度分布にはほとんど変化がなく、最高温度は465℃（昨年12月8日は411℃）で依然高い状態だった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約300mまで上がった。火映が6～9日に山麓の高感度カメラで観測された。

火山性地震は1日当たり49～93回、火山性微動は0～3回観測された。

- 1) 長野県消防防災ヘリコプターにより、気象庁と国立大学法人東京大学地震研究所が実施。
- 2) 昨年12月22日及び今年1月26日に長野県の協力により実施した観測では、噴煙量が多く火口内の観測が実施できなかった。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 三宅島 [地震・空振・噴煙・熱・火山ガス]

7日11時24分頃から振幅の小さいやや低周波地震が増加し、13時47分に空振を伴う低周波地震が発生した。この低周波地震で、三宅村神着、三宅村坪田で震度1を観測した。噴煙の状況は悪天のため不明だったが、三宅島測候所による現地調査では山腹に降灰は確認されなかった。13時47分に発生した低周波地震のあと、振幅の小さいやや低周波地震の多発はほぼ収まったが、当日の地震回数は182回と多かった。そのほかの日は0～4回で比較的少なかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約500mまで上がった。

8日に上空から行った観測⁴⁾では、火口周辺及び火口内に大きな変化はなく、赤外熱映像装置³⁾による観測では、火口内の最高温度は178℃で前回（2月2日、188℃）とほとんど変化がなかった。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量3,200～4,000トンで依然として多い状態であった。

4) 警視庁の協力による。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動・地震] レベル2（やや活発な火山活動）

7日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰緑色、量は約5割で、表面温度は74℃と高い状態であった（前期間は72℃）。また、湯だまりの中央部で高さ約5m、その他数ヶ所で高さ約1～2mの土砂噴出が観測された。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約300m（前期間600m）であった。

孤立型微動の発生回数は521回であった（前期間は756回）。火山性微動の発生はなかった（前期間は継続時間の短いものが4回）。火山性地震は3～5日にやや多く発生した。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル2（やや活発な火山活動）・新燃岳：レベル1（静穏な火山活動）

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、4～6日及び8日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上約200mであった。

◇ 桜島 レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火はなかった（前期間もなし）。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

● **口永良部島** **【地震・微動・噴気】 レベル2（やや活発な火山活動）**

火山性地震は、日回数に増減があるものの今期間もやや多い状態が続き、期間中の回数は33回であった（前期間は53回）。火山性微動は、継続時間の短いものが時々発生し、期間中の回数は7回であった（前期間は9回）。

京都大学の調査によれば、6日に新岳火口底に新たな噴気が確認され、また、火口外の噴気地帯の噴気量が増加しているのが確認された。なお、監視カメラ（新岳の北西約4kmに設置）による観測では、新岳及び古岳の噴気活動に変化はなかった。

◆ **諏訪之瀬島** **レベル3（小規模な噴火が発生かその可能性）**

今期間、噴火は観測されなかった。地震活動、噴煙活動等の観測データにも特段の変化はなかった。

表2 火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第34号 ↓（1日1回発表）	3日 16:00 ↓	前日及び当日00時～15時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは3。
	火山観測情報第40号	9日 16:00	
三 宅 島	火山観測情報第64号 ↓（1日2回発表）	3日 09:30 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第77号	9日 16:30	
阿 蘇 山	火山観測情報第5号	4日 11:05	火山活動は引き続きやや活発（小規模な土砂噴出発生、地震やや多い）。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第7号	4日 14:00	やや活発な火山活動継続（地震やや多い）。